

志賀原子力発電所の 環境放射線監視結果及び温排水影響調査結果

石川県、志賀町及び北陸電力株式会社は、発電所周辺の環境放射線監視及び温排水影響調査を実施しています。今回は、平成17年4月～6月までの環境放射線監視結果「平成17年度第1報」及び平成16年度冬季の温排水影響調査結果「平成16年度第4報」の概要をお知らせします。

なお、これらの結果は、石川県環境放射線測定技術委員会又は石川県温排水影響検討委員会において技術評価がなされ、石川県原子力環境安全管理協議会において確認されたものです。

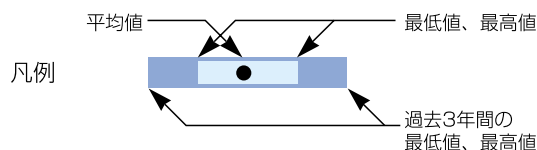
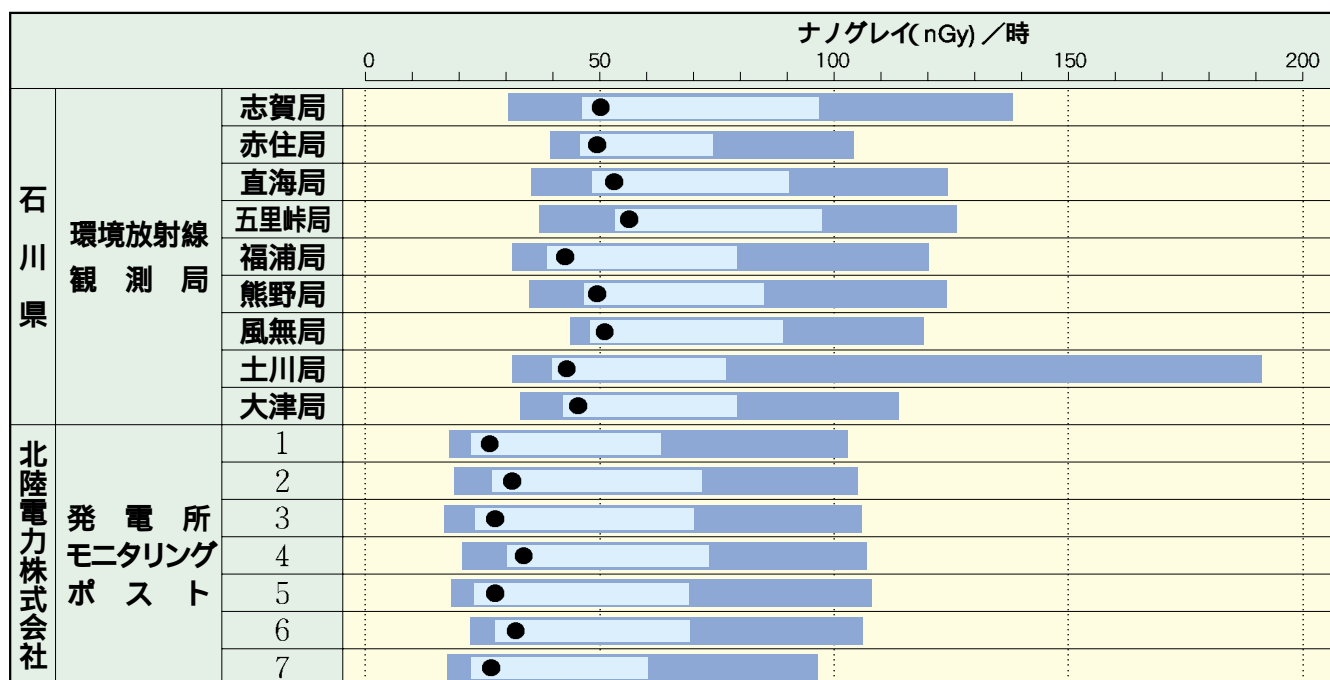
I 環境放射線監視（平成17年4月～6月）

1. 空間放射線

① 線量率

環境放射線観測局（9局）及びモニタリングポスト（7局）における線量率の測定結果は次のとおりでした。

各局の線量率の高めのものは、いずれも降雨等の自然条件によるものでした。



② 積算線量*

モニタリングポイント（45ヵ所）における積算線量の測定結果は、0.10～0.19mGy/91日で、過去の測定値と同程度でした。（*積算線量とは、TLD（熱ルミネセンス線量計）を用いて測定した3ヵ月間の空間放射線量積算値です。）

（参考）

なお、1号機の排気筒モニタデータは5～6 cps（H2.7～H16.3までの測定値：5～7 cps）、1号機の放水ピットモニタデータは11～13cps（H2.7～H16.3までの測定値：11～15cps）であり、2号機の排気筒モニタデータは5～6 cps、2号機の放水ピットモニタデータは11～13cps でした。

2. 環境試料中の放射能 (放射性核種分析)

環境試料について測定された人工放射性核種は、セシウム-137(Cs-137)、ストロンチウム-90(Sr-90)及びトリチウム(H-3)でしたが、いずれの濃度も過去の測定値と同程度でした。なお、セシウム-137、ストロンチウム-90及びトリチウムは、過去の核実験等によって自然界に広く存在しています。それぞれの放射性核種の濃度範囲は次のとおりです。

試料採取期間 平成17年4月～6月		セシウム-137濃度					
単 位		0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	降下物*)	ベクレル/平方メートル		●			
	浮遊じん*)	ミリベクレル/立方メートル	●				
	陸水*)	ミリベクレル/リットル				●	
	土壌*)	ベクレル/キログラム乾土			●		
	松葉*)	ベクレル/キログラム生			●		
	牛乳*)	ベクレル/リットル		●			
地域特産物*)	ベクレル/キログラム生		●				
海洋試料	海水*)	ミリベクレル/リットル			●		
	海底土*)	ベクレル/キログラム乾土			●		
	藻類*)	ベクレル/キログラム生		●			
	魚類*)	ベクレル/キログラム生		●			
	貝類*)	ベクレル/キログラム生		●			

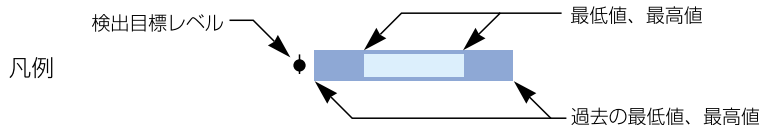
*) 今回は検出目標レベル未満

試料採取期間 平成17年2月～3月		ストロンチウム-90濃度					
単 位		0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	土壌*)	ベクレル/キログラム乾土			●		
	牛乳*)	ベクレル/リットル	●				
海洋試料	海底土*)	ベクレル/キログラム乾土		●			

*) 今回は検出目標レベル未満

試料採取期間 平成17年4月～5月		トリチウム濃度					
単 位		0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	陸水*)	ベクレル/リットル			●		
海洋試料	海水*)	ベクレル/リットル			●		

*) 今回は検出目標レベル未満

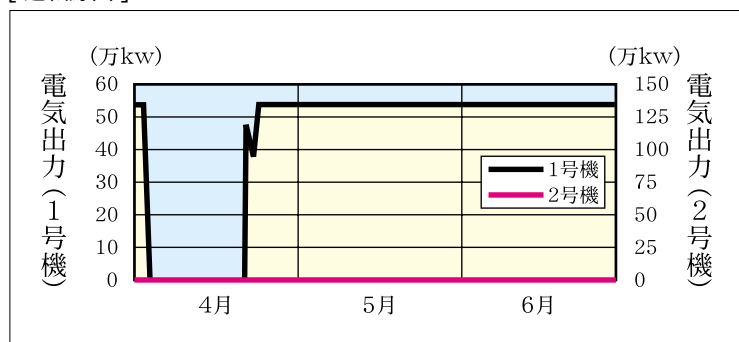


※検出目標レベル

測定においては、検出器の性能、試料の形状、測定時間等により検出下限値が異なるため、試料毎に核種別の検出目標レベルを定めています。

志賀原子力発電所の運転状況 (平成17年4月～6月)

[運転線図]

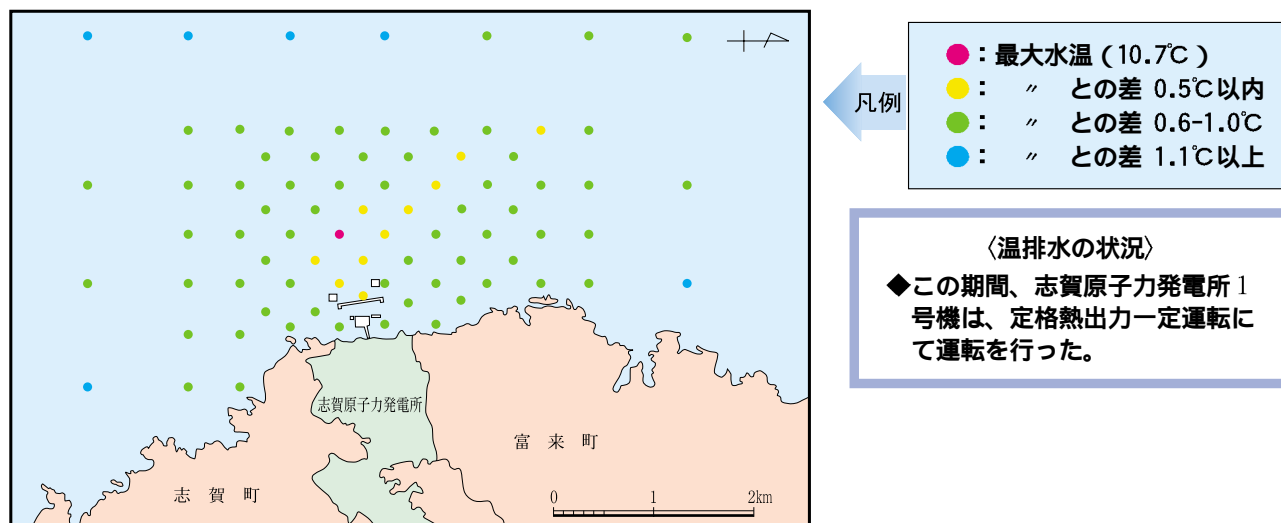


[特記事項]

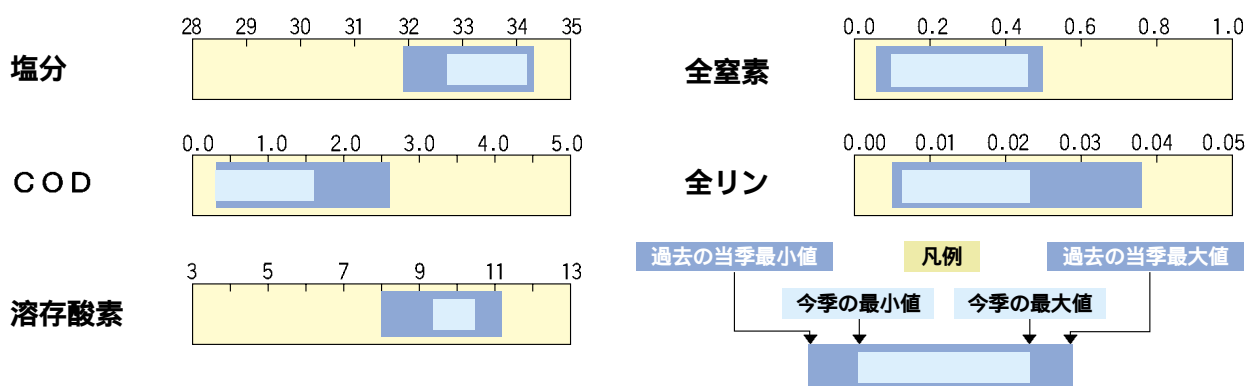
年 月 日	内 容
平成17年 4月1日	所内単独運転 (1号機) (送電系統の停電による)
4月2日	発電機解列 (1号機) (送電系統の停電に伴う原子炉停止)
4月24日	発電機並列 (1号機)
4月26日	燃料装荷開始 (2号機)
5月6日	燃料装荷完了 (2号機)
5月26日	初臨界 (2号機)

II 温排水影響調査（平成16年度冬季）

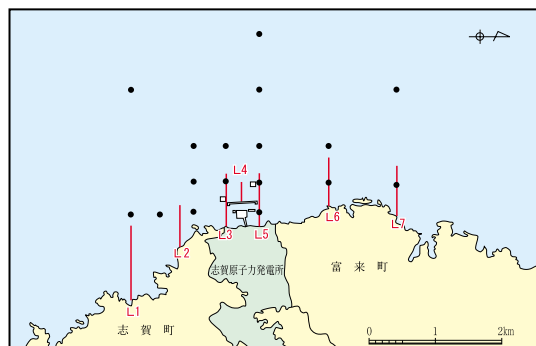
1. 水温調査結果(調査日：平成17年3月17日 午前) 水深1 m



2. 水質調査結果(採水日：平成17年3月17～22日) (単位：mg/ℓ ただし塩分を除く)



3. サザエ生息調査結果(調査日：平成17年3月20日～4月2日)



● : 水質測定点

サザエ生息調査測線

調査測線	水深 (m)	調査面積 (㎡)	調査結果 (個)	過去の調査結果 (個)
L 1	3～20	125	37	6～77
L 2	3～20	125	39*	1～53
L 3	3～20	125	65	13～64
L 4	15～20	50	2	1～11
L 5	3～20	125	33*	4～88
L 6	3～20	125	19*	2～98
L 7	3～20	125	90	*

*平成15年度から追加した調査のため、過去(平成2年度～14年度)の調査結果はなし
※のデータは、天候不良のため調査年度外となり参考データとして扱う

水温調査：温排水浮上点近傍では周辺と比べ水温がやや高かった。平均水温は、これまでの冬季調査結果と比較すると低い値であった。同一水深層での温度差は0.4～1.3°Cであった。
水質・底質調査：これまでの冬季調査結果と比較すると、いずれの項目もほぼ同程度であった。
海生生物調査：これまでの冬季調査結果と比較すると、ほぼ同様であり、全体として大きな変化は認められなかった。

以上の内容は、石川県原子力安全対策室ホームページ(<http://atom.pref.ishikawa.jp/>)でも見ることができます。